株式会社ラクト・ジャパン

会 社 説 明 会

2018年８月25日

ラクト･ジャパンはこんな会社です

1 乳原料・チーズをメインに取り扱う専門商社

あらゆる乳製品原料を取り扱うリーディングカンパニー

2 独立系専門商社で独自のポジションを確保

乳原料・チーズにおいては国内随一の規模と調達力

3 黎明期にあるアジア乳製品市場の開拓で成長目指す

乳原料の輸入販売のほか、食材としてのチーズ製造で更なる成長目指す

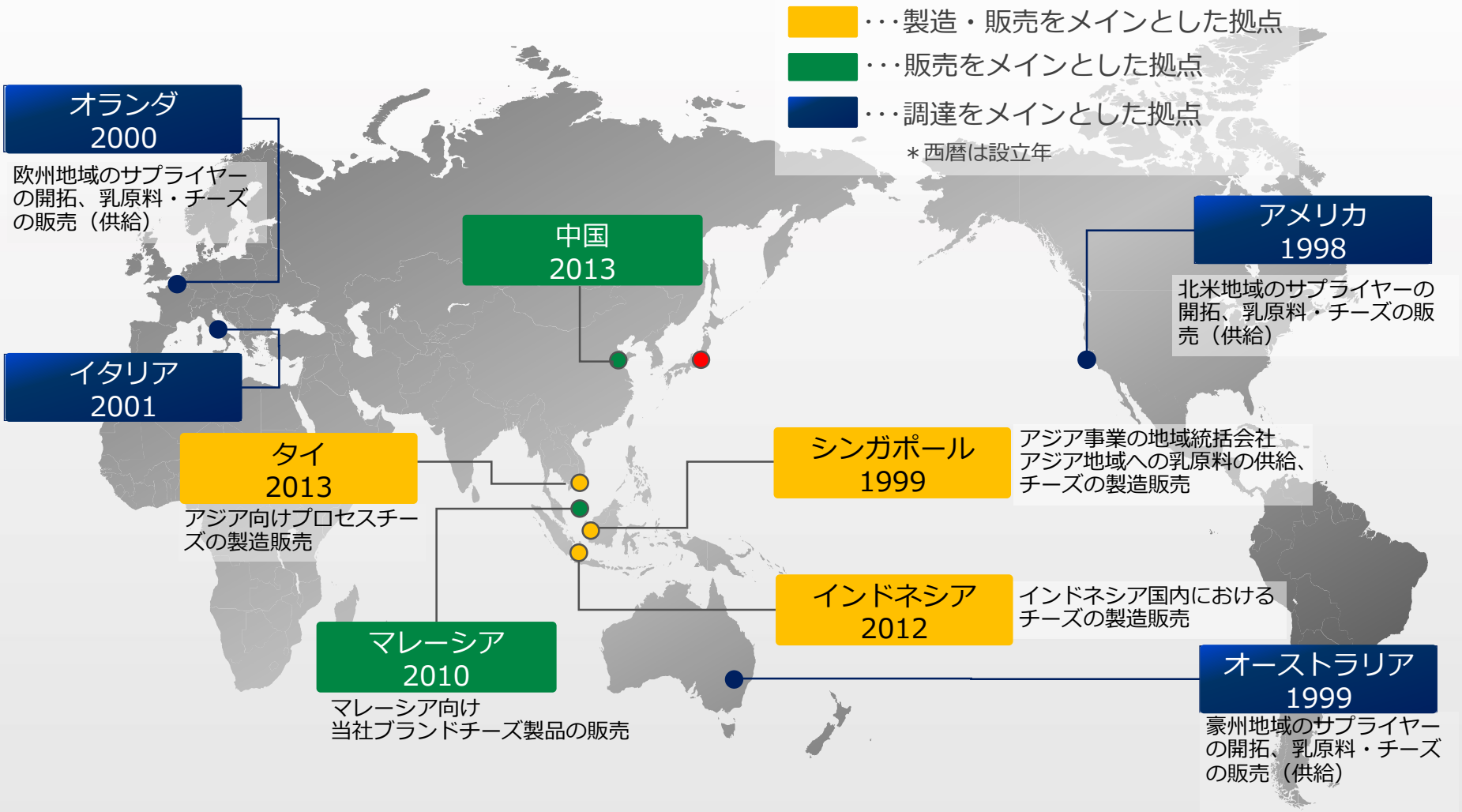
ラクト・ジャパンの概要は？

会社概要

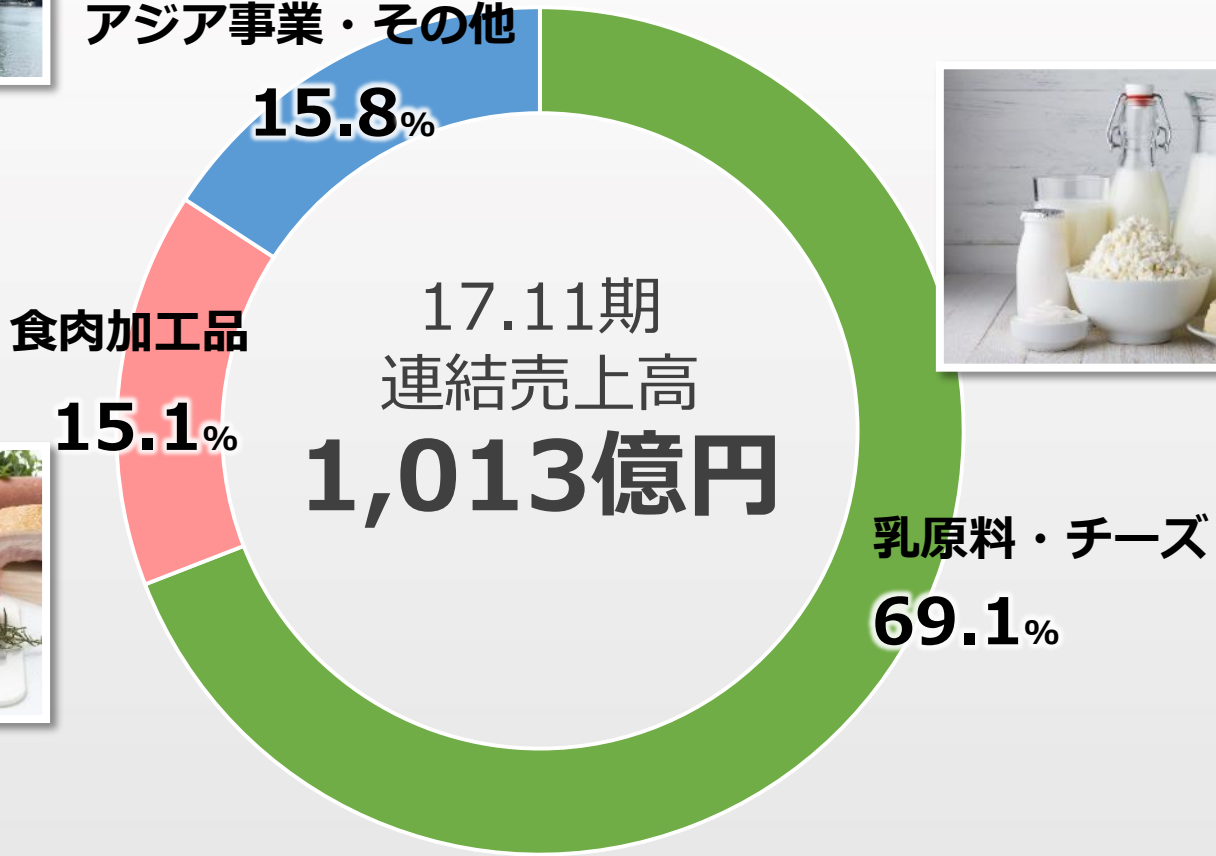
会　社　名	株式会社ラクト・ジャパン
設　　立	1998年５月
代　表　者	代表取締役社長　三浦　元久
本社所在地	東京都中央区二丁目11番２号 太陽生命日本橋ビル22Ｆ
資　本　金	10億9,753万円
事業内容	乳原料・チーズ、食肉加工品等の輸入を主とする卸売 および海外子会社によるチーズの製造・販売事業
上場市場	東証１部（証券コード　3139）
連結従業員数	231名　（2018年2月28日現在）

グローバル・ネットワーク

ラクト・ジャパンの有するグローバルネットワーク

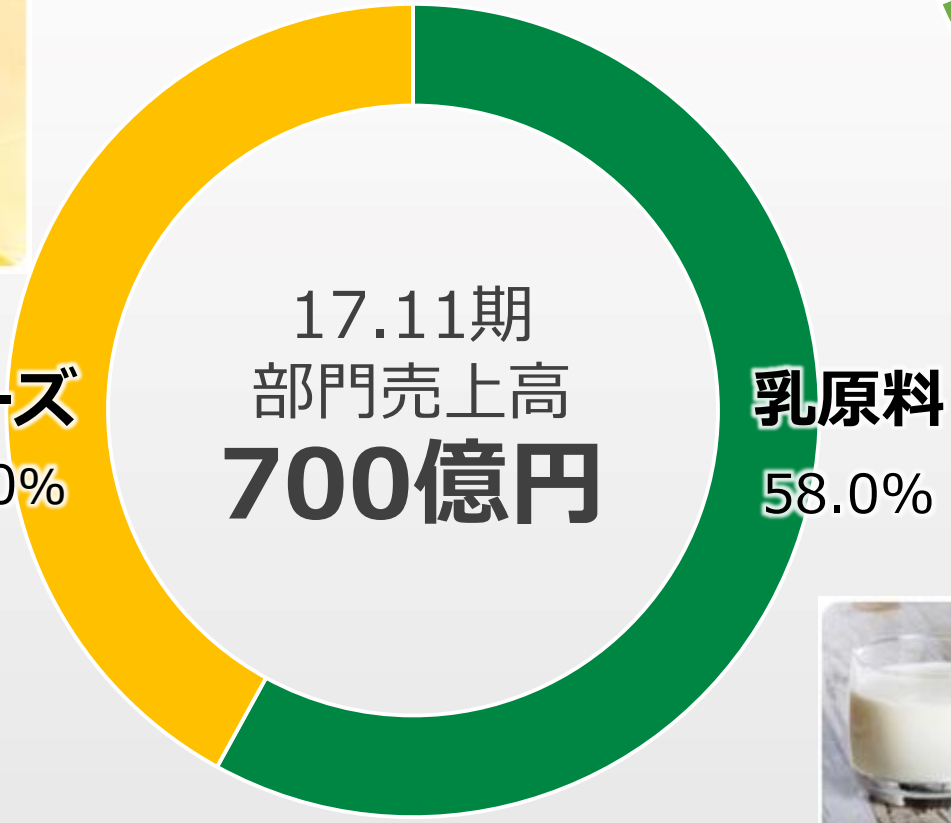


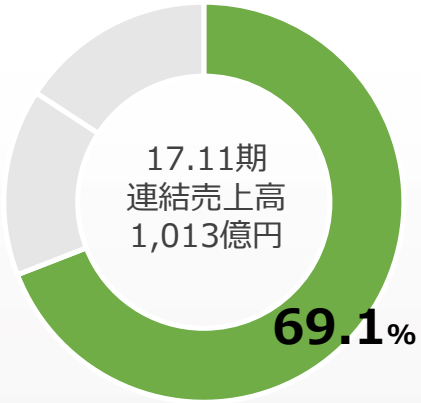
2017年11月期　連結売上構成



乳原料・チーズ事業

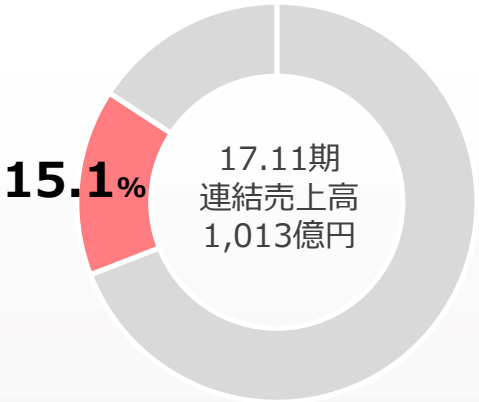
乳原料とチーズの輸入販売





食肉加工品事業

豚肉や生ハムなどの食肉加工品の仕入・販売
北米からはチルド・ポークを輸入、
欧州その他の地域からは生ハム等を輸入



北米・欧州の
ポーク生産メーカー

欧州その他の地域
生ハム・サラミ等
生産メーカー

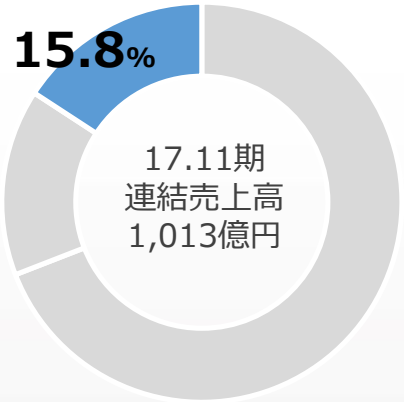
Lacto Japan

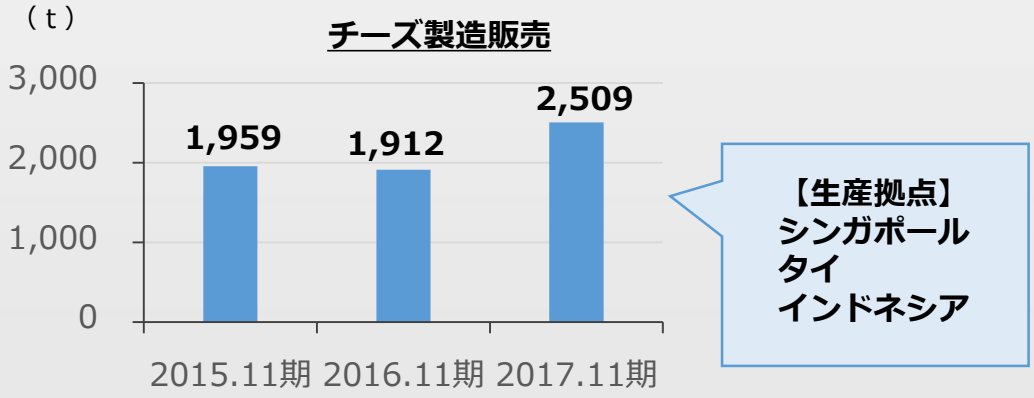
食肉加工メーカー
外食チェーン
リパックメーカー

リパックメーカー
小売店

アジア事業・その他

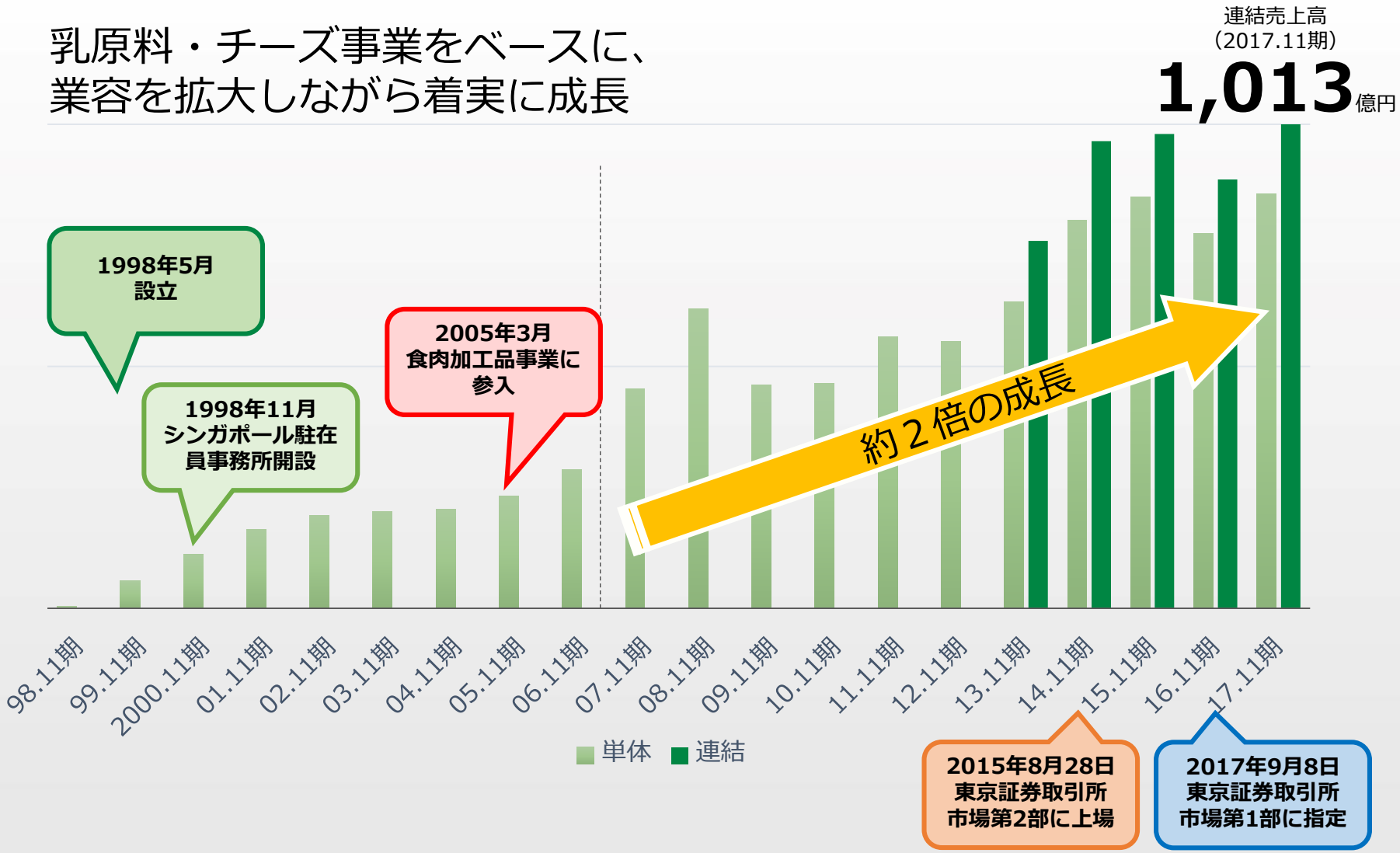
シンガポールを中心に、アジア地域に向けて
乳原料の販売と、食材としてのチーズの製造販売を
手掛ける





ラクト・ジャパンの歩み（売上高推移）

乳原料・チーズ事業をベースに、
業容を拡大しながら着実に成長



ラクト・ジャパンが扱う商材は
どんな特徴があるの？

牛乳の用途は想像以上に幅広い

牛乳を構成する四つの成分

タンパク質

ミネラル

糖

脂　肪

- チーズ
- アイスクリーム
- ヨーグルト
- バター
- クリーム
- 菓子類（チョコレート、キャラメルほか）
- 医薬品
- 天然甘味料
- 結着剤（ハム、ソーセージなど）
- 飲料
- 健康食品
- 育児粉乳
- サプリメント
- ふりかけ

ほか

ラクト・ジャパンが扱う乳原料は膨大な種類

汎用乳原料

バター

脱脂粉乳

約**40**アイテム

ホエイ

カゼイン

チーズ

乳糖

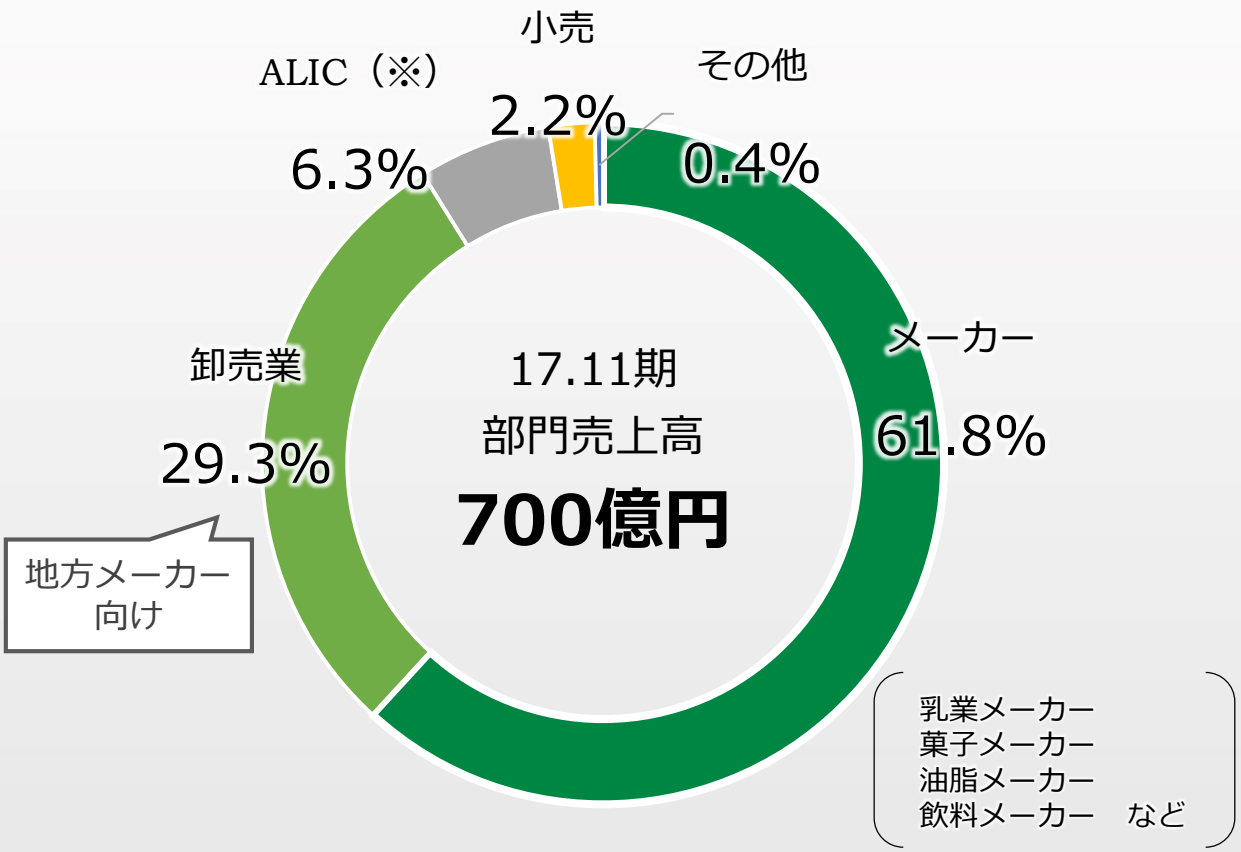
カスタマイズ品

約**500**アイテム

顧客ニーズに
合わせて
原料をアレンジ

多様なお客様に乳原料をお届けする

顧客業種別売上高構成比（乳原料・チーズ部門）



※ALIC＝独立行政法人農畜産業振興機構

ラクト・ジャパンの特徴と強みは？

当社の特徴

とてもデリケートで
専門家の高度なノウハウが必要な
乳原料の輸入

- ✓ 品質管理が難しい
- ✓ アイテム数が多い
- ✓ 主要乳製品は『国家貿易品目』に指定され、輸入が制限
- ✓ 関税制度が複雑
- ✓ 生活に欠かせず、安定供給が必要

Lacto Japan

歴史をかけて醸成した
プロフェッショナル
としての強みで対応

強みの源泉

プロフェッショナル人材 × **仕入先・販売先との信頼関係**

ラクトの強み

調達力 × **情報力** × **提案力**

独立系専門商社だからできること

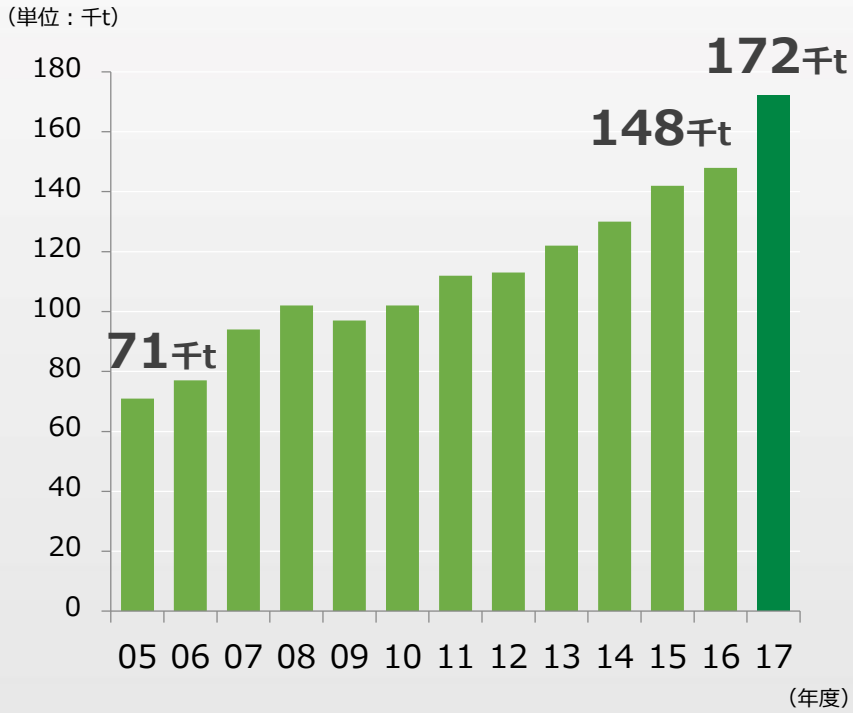
- **系列に縛られない全方位型の取引**
- **きめ細やかな顧客ニーズへの対応**

	ラクト・ジャパンの ビジネスモデル	大手商社・食品部門の ビジネスモデル
調達	独自のネットワークで 戦略的パートナーを確保	提携・系列企業があれば優先
販売	幅広い取引先 ※同じ業種でも複数企業に納品も可能	提携・系列企業があれば優先
取引 スタイル	取引ロットの多寡を問わず、 顧客ニーズに対応	基本的には系列企業を中心に 大量調達・大量販売
担当者	頻繁な異動なし 乳原料一筋の専門家集団 乳原料部門だけで約50人	一定期間ごとの ジョブローテーション “大企業の一組織”という陣容

国内随一の規模と調達力

国内最大規模の乳製品商社
乳原料・チーズの取扱量はこの10年で倍増、輸入シェアは約35%

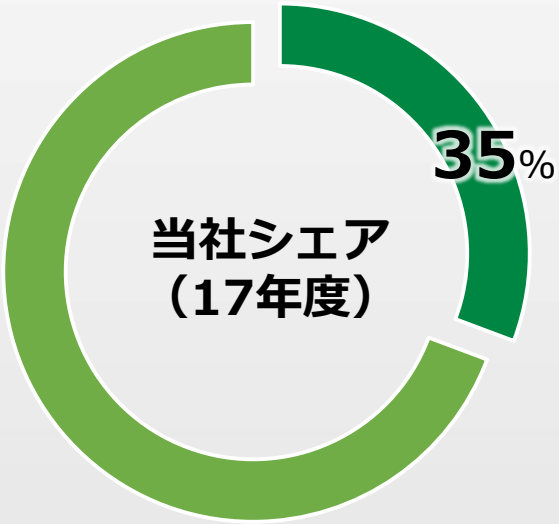
当社の輸入取扱量（乳原料・チーズ）



注）データは固形換算

輸入乳製品に占める当社取扱いシェア

総輸入量　：　**500千t**（2017年度）
当　　社　：　**172千t**（2017年度）



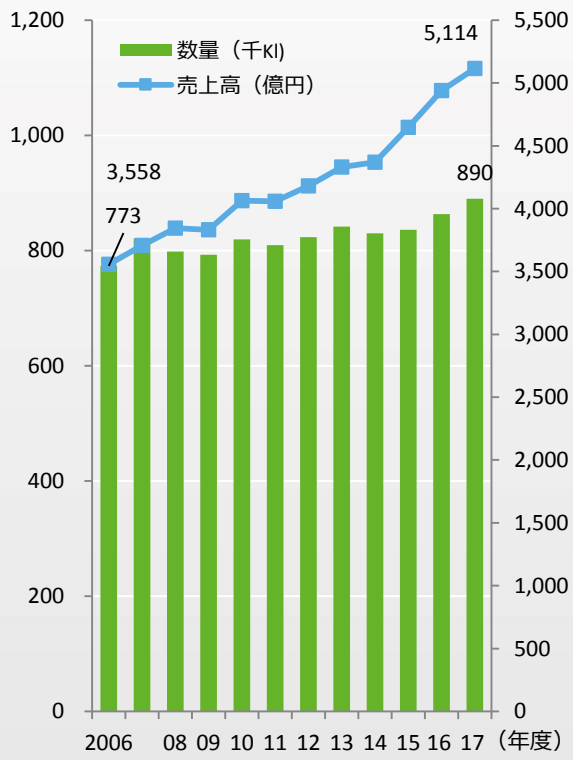
出所）農水省「食糧需給表」を参照のうえラクト･ジャパン作成
輸入総量を固形換算し（係数0.1）シェアを計算

乳原料・チーズ事業を取り巻く事業環境は？

「乳原料」が使われている食品と言えば…

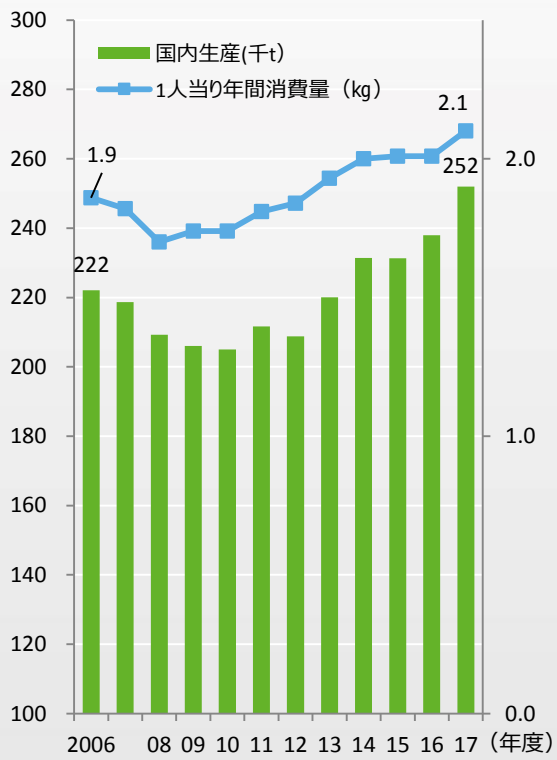
国内の乳業メーカー・菓子メーカーの乳原料需要は高い

アイスクリーム類及び氷菓販売金額の推移



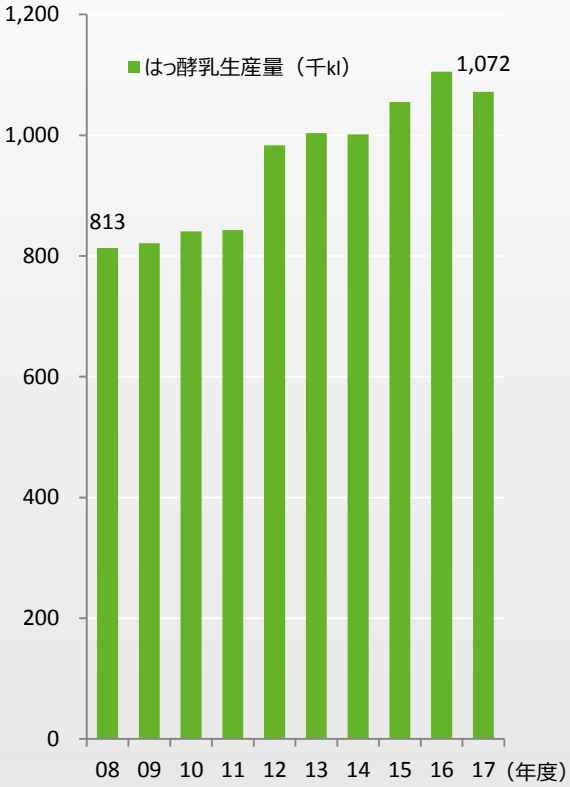
出所：一般社団法人アイスクリーム協会より

チョコレート製品国産・消費推移



出所：日本チョコレート・ココア協会より

ヨーグルトなどのはっ酵乳生産量（乳業）

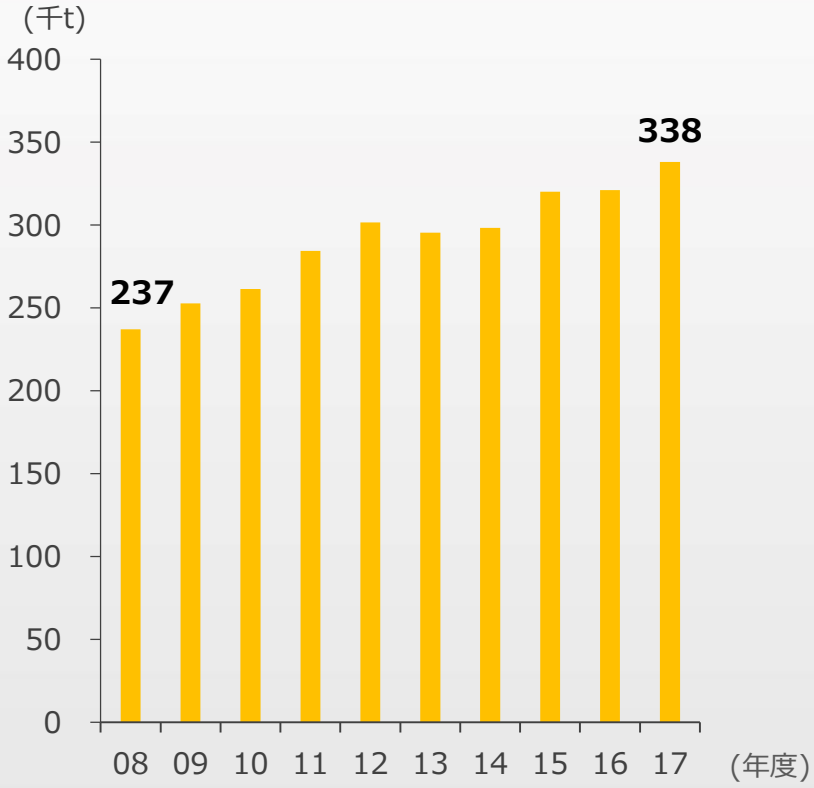


出所：牛乳乳製品統計（農林水産省）及び「乳業年鑑」（日本乳業協会）

チーズも国内消費量は増加傾向

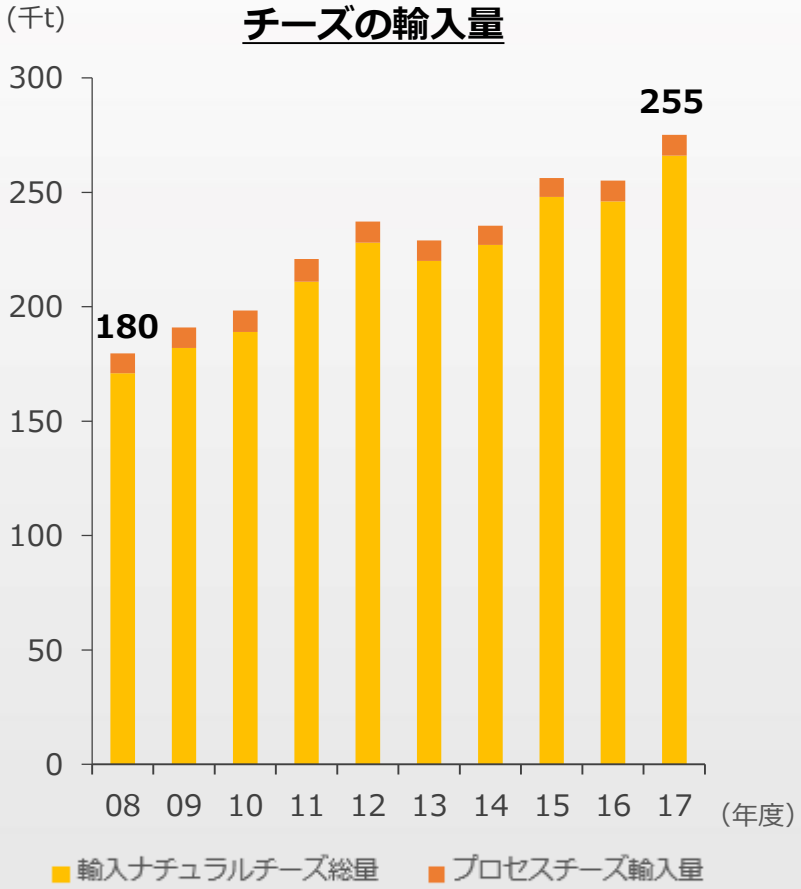
チーズの国内消費量は増加傾向が継続、
プロセスチーズ生産用も含めナチュラルチーズの輸入量は増加

国内チーズ総消費量



出所：農林水産省「チーズの需給表」（2018/7/13公表）

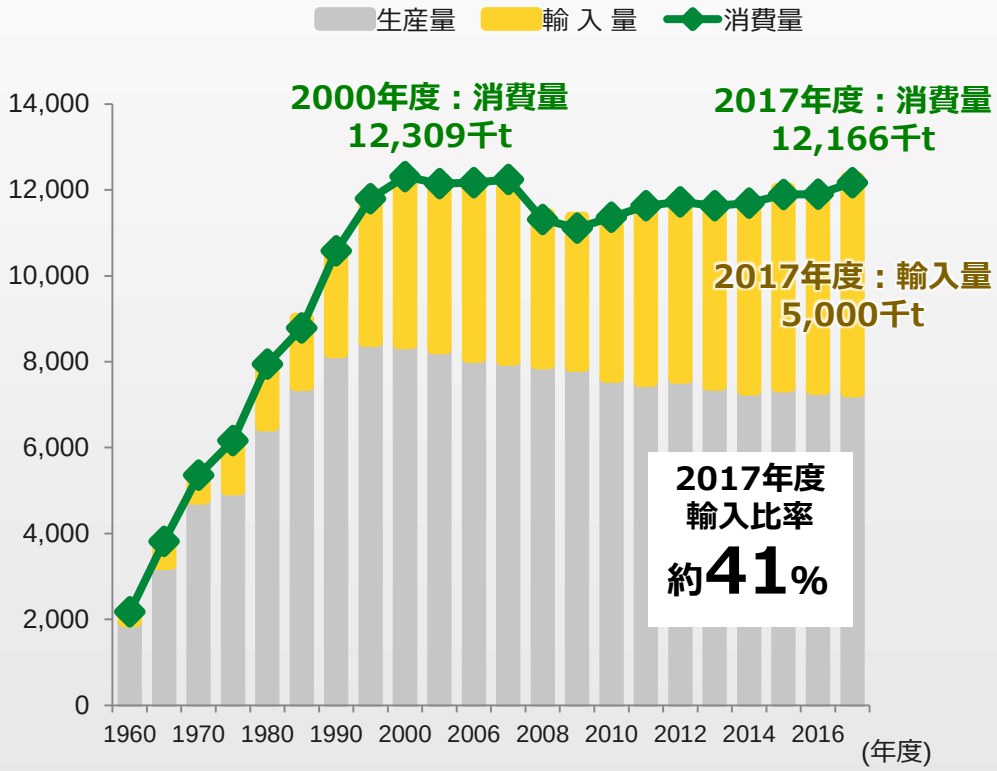
チーズの輸入量



輸入乳原料の需要は高まる傾向

健康志向、免疫力、付加価値商品への関心により、乳製品への需要は堅調
それに伴い、乳原料輸入量は増加傾向が続く

牛乳・乳製品消費量と国内生産・輸入の状況

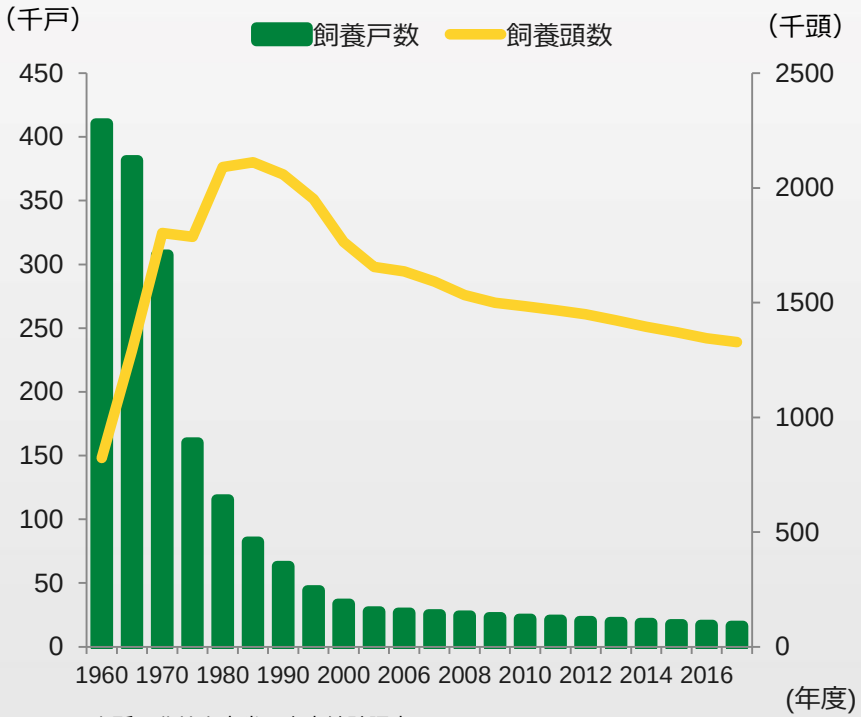


出所：農林水産省「平成29年度食糧需給表」（2017年度は概算値）
注：データは生乳換算

一方、国内の生乳生産量は減少

国内酪農業は離農、後継者不足、気候変動により乳牛が減少し、
生産力低下からの輸入原料への需要はますます高まる傾向

乳用牛飼養戸数・頭数累年統計



出所：農林水産省　畜産統計調査

温暖化により
牛の成育に影響

後継者不足により、
離農の傾向が続く

グローバル事業環境

2018年度上期の乳製品・乳原料市況

欧　州

EU生乳生産増加、ロシア禁輸による脱脂粉乳過剰在庫
価格軟調

中　国

需要増により輸入量増加

米　国

生乳生産量増加により
市場価格軟調
米国政府保護貿易政策の影響で米国乳製品に対する輸出相手国（メキシコ・中国等）
報復関税

オセアニア

気候変動等諸条件により
増産難しい
価格上昇

●･･･製造・販売をメインとした拠点

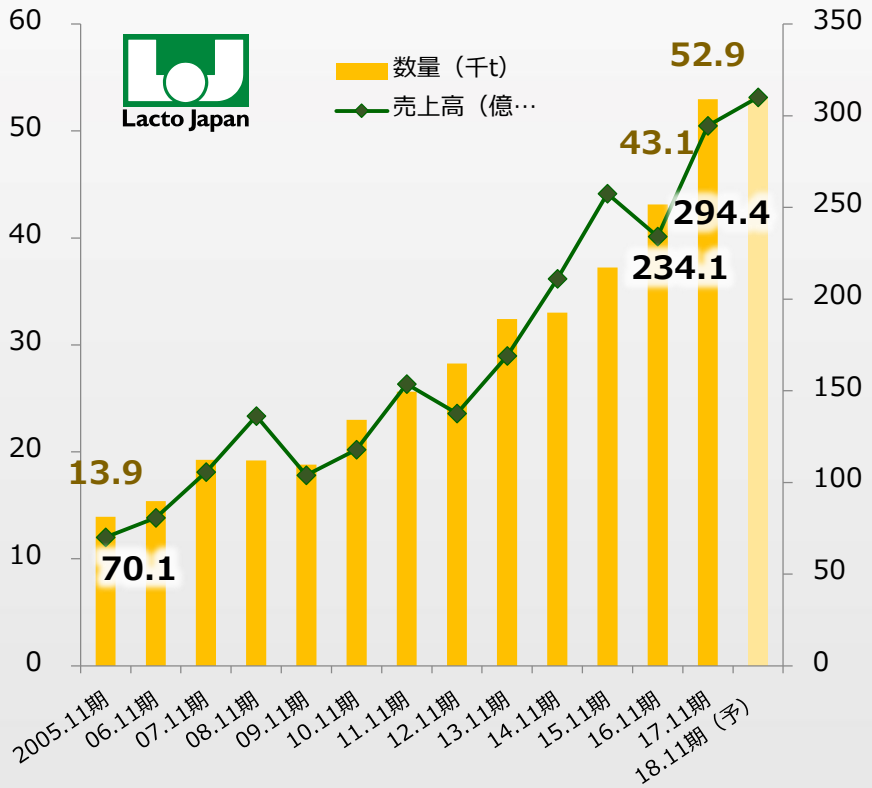
●･･･調達をメインとした拠点

自由貿易協定で話題
ラクト・ジャパンの「チーズ事業」
について知りたい！

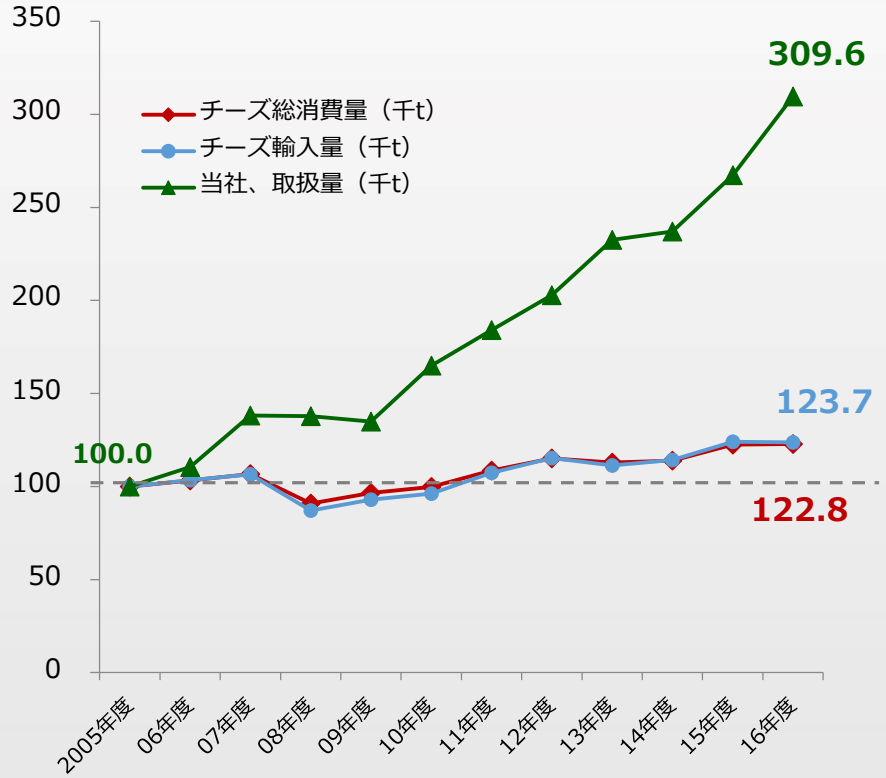
チーズ事業は大きく成長

国内のチーズ消費増加を背景に、当社チーズ事業は市場成長を大きく上回り拡大

チーズ事業売上高および取扱数量



市場成長と当社の取扱量の伸び（2005年度=100）



（出典）チーズ需給表よりラクト・ジャパン作成

生産量が限られる一方、消費は今後も伸びる

供給

生産量調整は容易ではない
サプライヤーも限定的

VS

需要

経済成長・食の西洋化で
ニーズ拡大

乳業者のインセンティブは低い

- 搾乳後、キャッシュ化に時間がかかる
（熟成期間が必要）

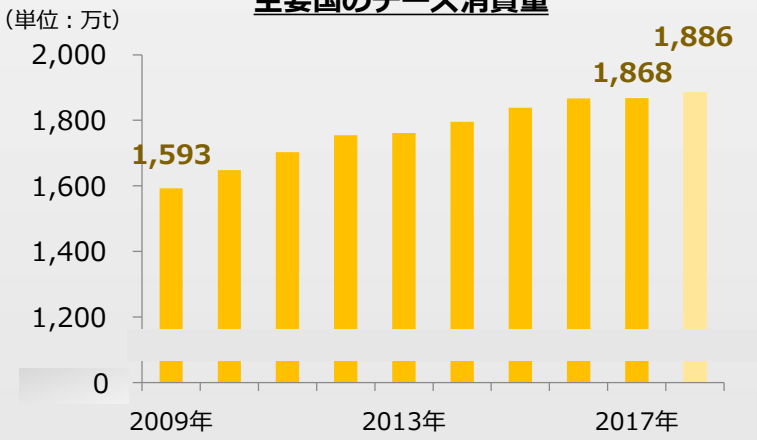
原料乳に対する製造歩留まりが低い

- 大量の原料乳が必要
（チーズ1kgに必要な原料乳は10kg）

製造できるのは先進国

- 衛生管理のインフラが必要
（搾乳後の細菌管理、輸送インフラ等）

主要国のチーズ消費量



（出典）USDA「Dairy:World Markets and Trade」よりJミルク作成（一部抜粋）
※2018年は予測値

独立系の専門商社として確固たる地位を確保

調　達

- 日本の輸入チーズに占める当社取扱いシェアはトップレベルで約22%
（2017年度実績）
- 調達先はオセアニア（オーストラリア、ニュージーランド）以外に北米、欧州、アルゼンチン等幅広い
- ユーザーニーズに合わせて、サプライヤーと共に商品開発も行う

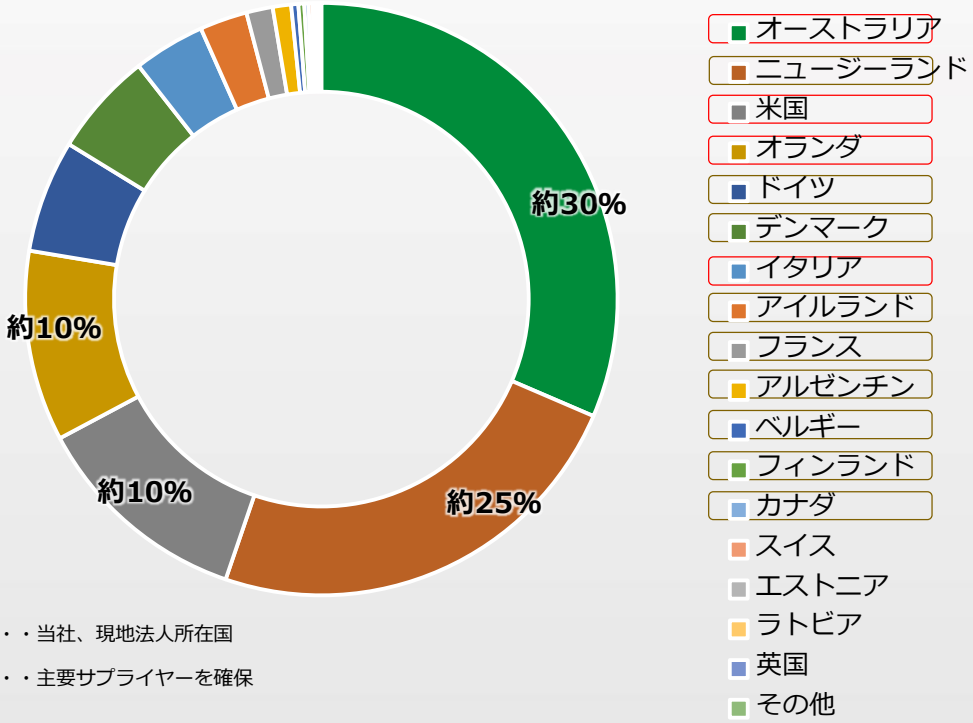
販　売

- 大手乳業メーカーに限らず、非乳業のチーズメーカー、ナチュラルチーズの加工メーカー、食品メーカーなど、幅広く取引
- 取引先の規模も多彩
（中小メーカーとの取引も多数）
- 専門商社として、業種・企業規模にかかわらず、細かなニーズに対応

最大の強みは多様なエリアをカバーする調達力

オセアニアに偏らず、輸入チーズ生産地のほとんどをカバー
特に近年成長著しい欧州・米国のサプライヤーと取引を順調に拡大

輸入ナチュラルチーズの生産地
（日本・2017年）



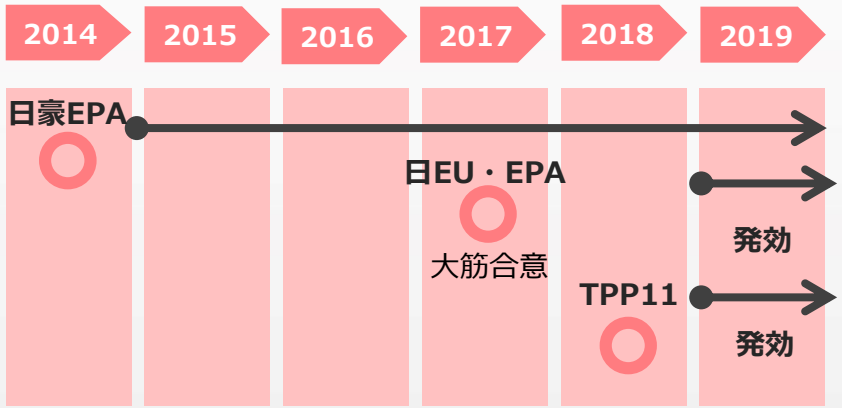
・・・当社、現地法人所在国

・・・主要サプライヤーを確保

（出典）財務省『日本貿易統計』

自由貿易協定による関税見直しは追い風

■自由貿易協定の発効スケジュール



- 乳製品の中でも、関税撤廃の目玉は「チーズ」と「ホエイ」
- 主に原材料として使用されるハード系チーズ（チェダー、ゴーダ等）およびクリームチーズ*等は16年をかけて関税を撤廃
- 日本人の嗜好に合うソフト系チーズ（モッツァレラ、カマンベール等）、プロセスチーズの関税は維持

*乳脂肪45%未満

■当社ビジネスへの影響

TPPや日欧EPAにより一部のチーズの関税が段階的に低下

商品価格の低下や流通小売業者のフェア等の実施により、消費者にとってよりチーズが身近に、需要の喚起が予想

需要増加に伴うチーズ市場の拡大

市場拡大に伴う競争激化

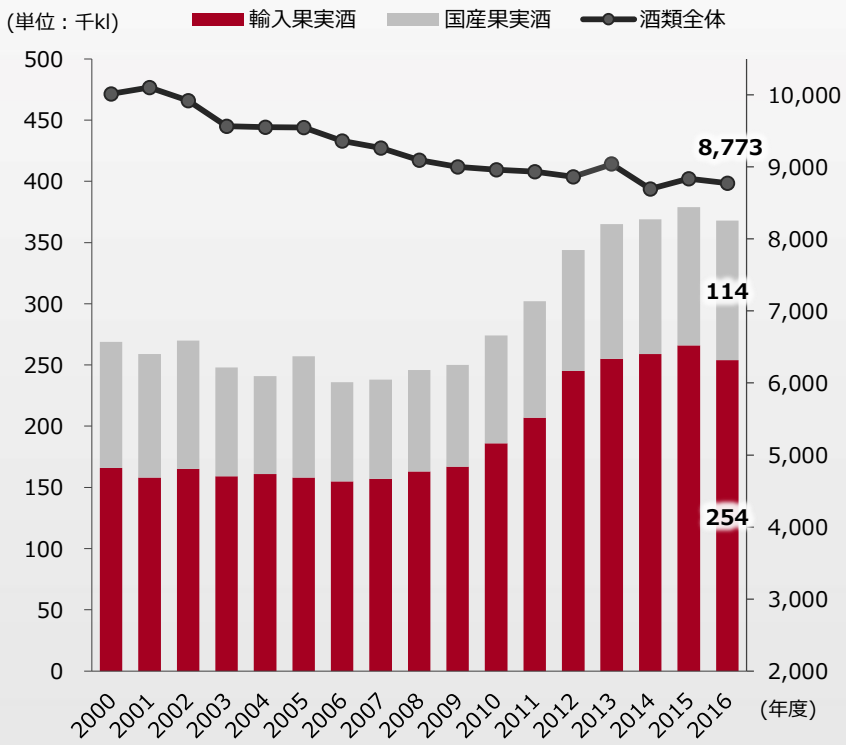
グローバルで需要が増加する中、サプライソースは限定的。

サプライヤーとの関係維持・強化と、調達先の多様化に努めてきた当社にとって、取引拡大のチャンス。

ワインとともにチーズ消費量も拡大

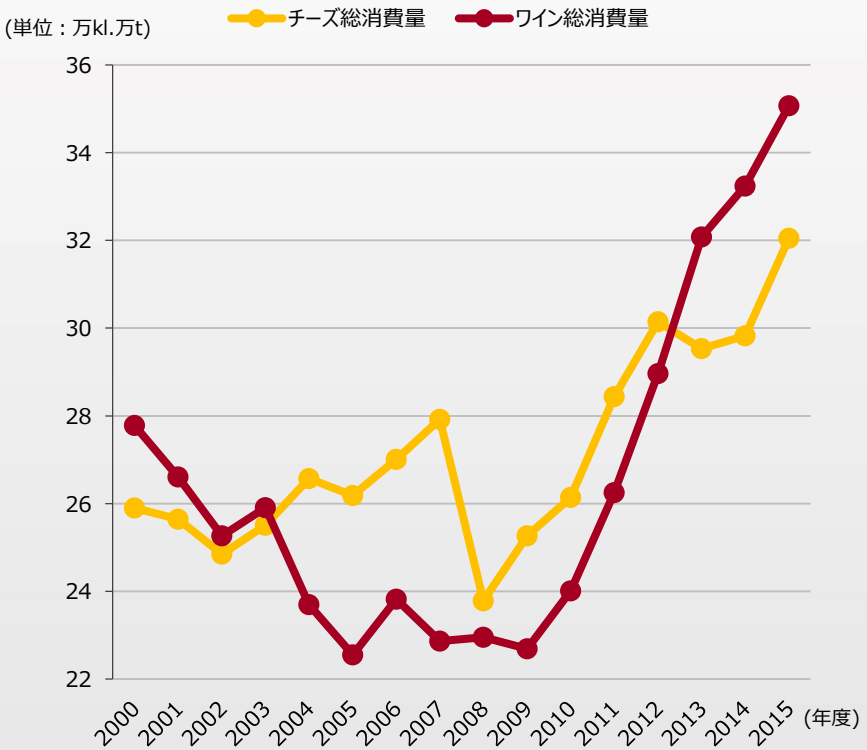
チーズと関連したワインに関しても、近年、国内市場は大きく拡大
TPP11による関税撤廃により更なる拡大が予想される

輸入果実酒課税移出量の推移



（出典）国税庁課税統計

チーズ総消費量とワイン総消費量の推移

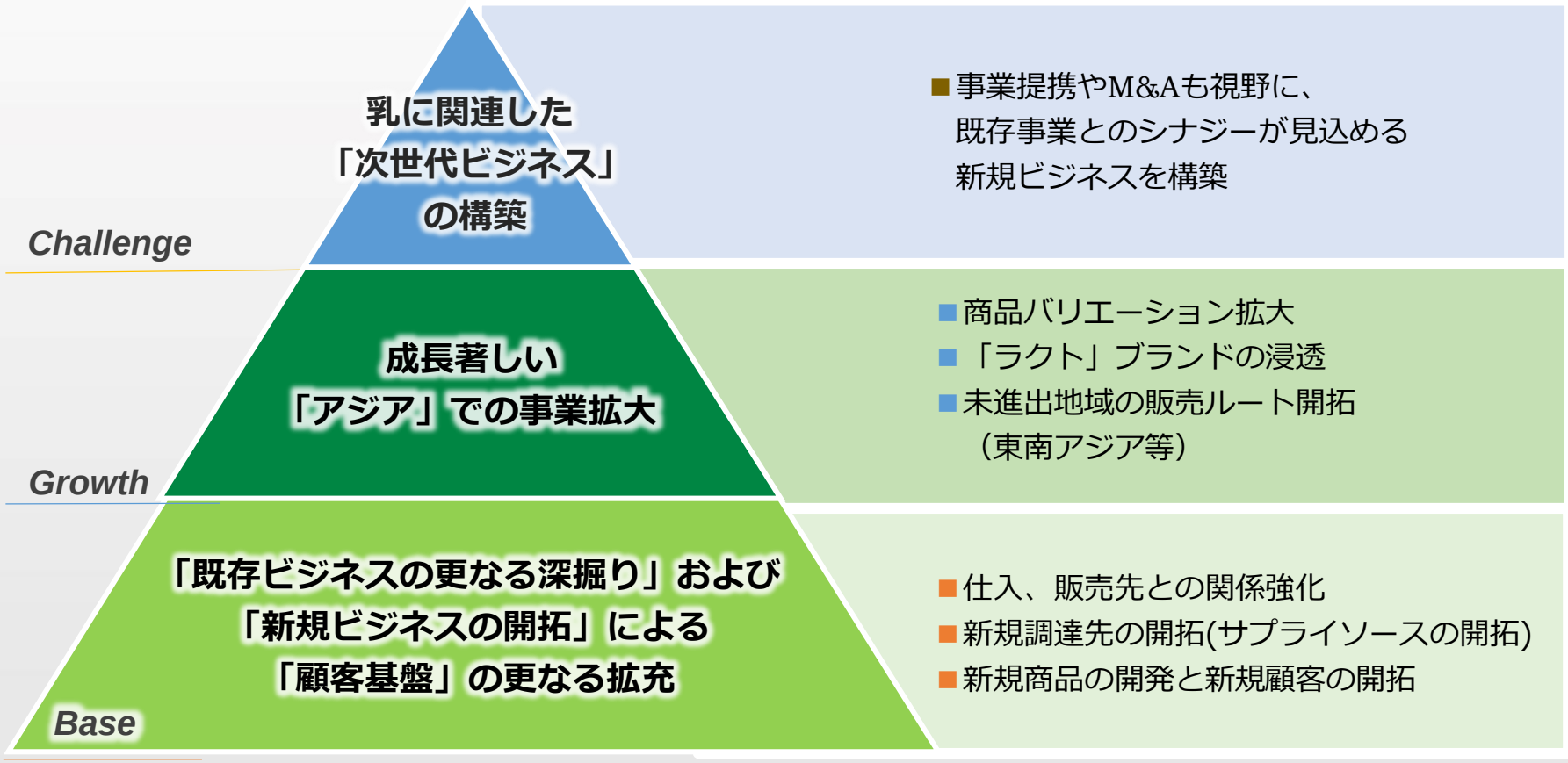


（出典）農林水産省、国税庁課税統計から当社作成

ラクト・ジャパンの
中期経営計画は？

中期経営計画「NEXT-LJ2020」

Global Food Professional Companyとして、
消費者の皆様に健康と食の楽しさを提供



新中期経営計画「NEXT-LJ2020」

「NEXT-LJ2019」の達成を受け、中期経営計画の目標値を更新

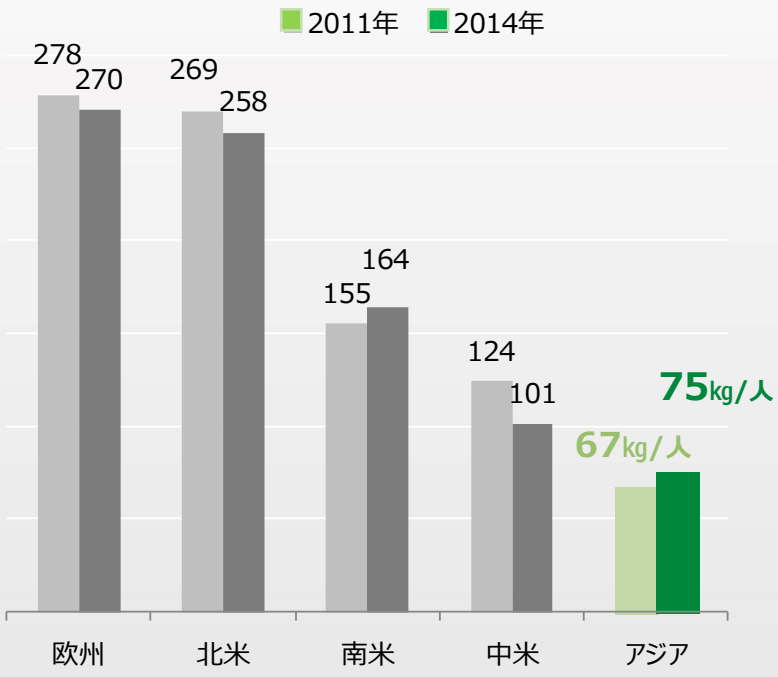
	2017年11月期 実績	2020年11月期 目標	増減
売上高	1,013億円	1,250億円	23%増
経常利益	25億円	30億円	20%増
親会社に帰属する 当期純利益	17億円	21億円	24%増

※目標値は連結ベース
※中期計画は毎期ローリングして公表しております

アジアの乳製品市場の拡大余地は大きい

アジアの乳製品市場は黎明期、今後の市場拡大余地は大きい
国内企業のほとんどは未進出

世界の年間乳製品消費量（kg/人、生乳換算）



出所）International Dairy Federation
"The World Dairy Situation 2014"

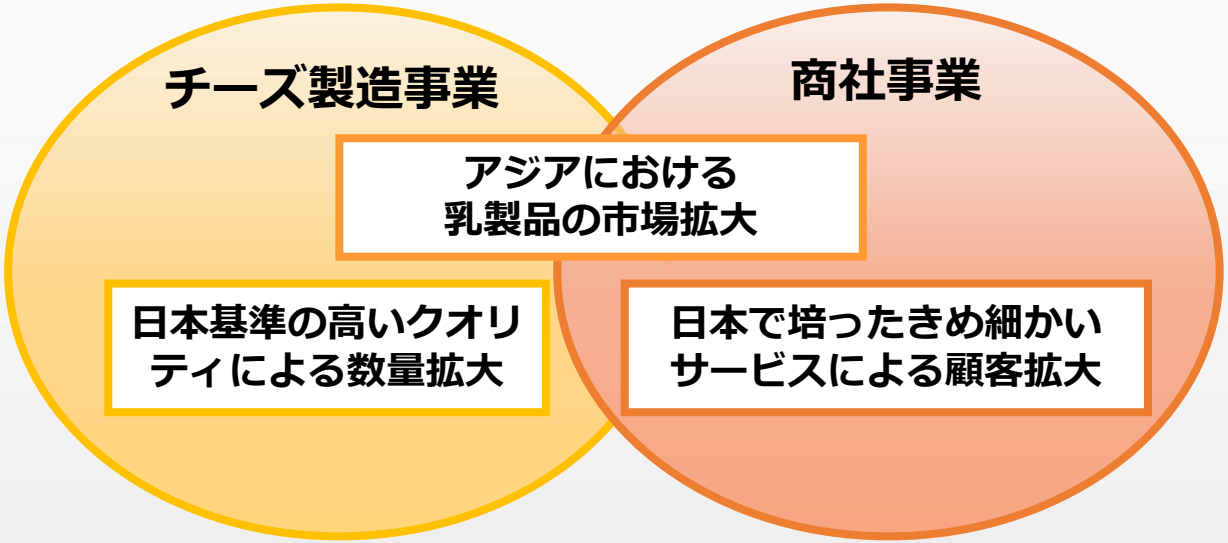
年間チーズ摂取量比較(2016)

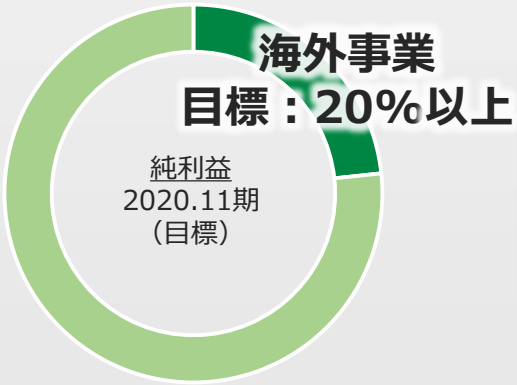
フランス	：	**27.2**kg/人
ドイツ	：	**24.7**kg/人
アメリカ	：	**16.7**kg/人
韓国	：	**2.8**kg/人
中国	：	**0.1**kg/人
日本	：	**2.4**kg/人

出所）JIDF「世界の酪農情況2017」

商社・製造事業の両輪により、アジアを新しい収益の柱に

アジアにおけるチーズ供給拠点を拡充すると共に
チーズ製造事業を新たな収益の柱に





シンガポール工場の写真

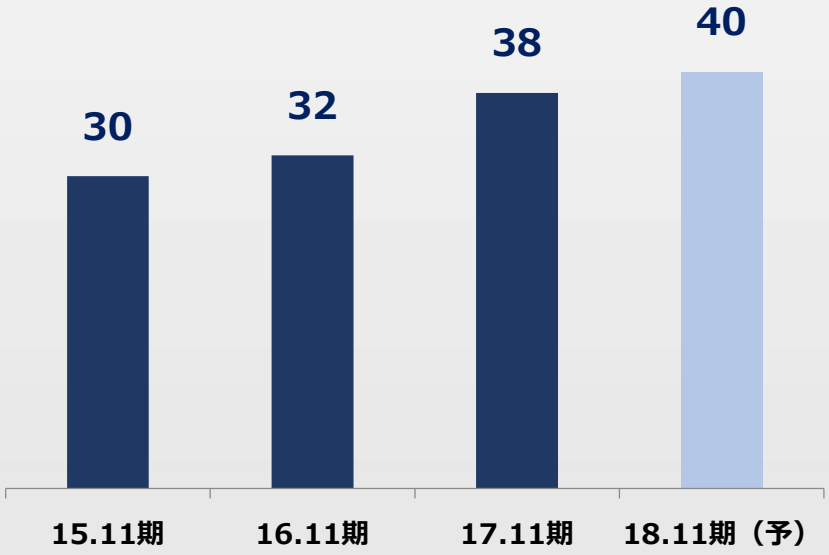
タイ工場の外観

株主還元について（配当・優待）

安定配当を目指します

継続した事業運営及び成長分野への投資、さらには
収益力強化に向けた事業基盤の強化などのため、
自己資本の充実を図るとともに、株主への利益還元を
最重要政策と位置付け、今後も増配を目指します。

1株当たり配当金（単位：円）



株主優待制度を導入しています

対象となる株主	５月末現在の当社株主名簿に記載された、当社株式１単元（100株）以上を保有いただいている株主様
優待の内容	対象となる株主様１名につき、クオカード1,000円分を贈呈
進呈時期	8月末ごろ予定

（ご参考）
2018.11期２Q業績と
2018.11期業績予想について

2018年度11月期第２四半期の決算のポイント

■連結業績

売上高

- 当社グループ全体の売上高・販売数量は第２四半期連結累計期間として過去最高を更新。
- 事業別の状況においても、乳原料・チーズ部門の売上高・販売数量は堅調な需要拡大と新規顧客開拓により*第２四半期において過去最高を更新。また、アジア事業もアジアの市場成長を背景とするビジネス拡大により、売上高・販売数量ともに第２四半期において過去最高を更新。

経常利益

- 経常利益は11億33百万円となり、前年同四半期比で６億39百万円の減益。
- 主な要因は、経常利益に対してマイナス方向の為替影響があったため（増減：6.93億円のマイナス方向）。
  （前年同四半期は増益方向の為替影響（+4.47億円)、当第２四半期は減益方向（△2.45億円）の為替影響）
  それらの為替影響を除いたベースでは、当第２四半期は増益となる。

■通期業績予想

- 下期の売上高は、一部商品への緊急的な需要はいったん一服したものの、その他の事業環境は堅調で、業績好調持続を見込む。
- 下期の経常利益は、チーズ事業における利益率の改善や利益率の高い乳脂肪原料の販売数量増加により、改善を見込む。

■中長期的な成長に向けて

- 国産生乳生産量の減少による乳製品原料の輸入品への需要増という中長期トレンドは変わらず。
  さらにTPPや日欧EPAなどの新たな自由貿易協定の決定というポジティブ要因も発生。
  これらの外部環境のもと、当社の競争力を維持・向上させ、更なる成長を図る。

*第２四半期連結累計期間

連結業績概要

（単位：百万円）

	2017年11月期 2Q	2018年11月期 2Q			2018年11月期 年間予想
		実績	対前年同四半期比増減額	対前年同四半期比増減率(%)	
連結売上高	46,478	59,164	+12,685	+27.3	110,300
経常利益	1,772	1,133	△639	△36.1	2,600
売上高経常利益率（%）	3.8	1.9	△1.9	-	2.4
(経常利益に含まれる為替影響額※)	(+447)	(△245)	(△693)	-	-
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益	1,200	736	△464	△38.7	1,800
売上高当期純利益率（%）	2.6	1.2	△1.3	-	1.6
一株当たり四半期（当期）純利益（円）	245.52	150.50	△95.02		367.91
為替レート（円/USD）	113.21	109.18	△4.03		-
為替レート（円/EURO）	121.26	132.52	+11.26		-

（財務数値の表示は端数切り捨て）

※経常利益に含まれる為替影響額：当社は外貨為替会計処理基準における原則法を採用しているため、為替ヘッジの影響が売上原価と営業外損益の両方に計上されます。そのため売上原価と営業外損益両方に対する為替ヘッジの影響額を記載しております（詳細はP28以降の参考資料をご覧ください。）

2018.11期　連結業績予想

（単位：百万円）

	2017.11期 実績	2018.11期（予）		
		予想※	増減額	増減率
売上高	101,334	110,300	8,966	+8.9 %
経常利益	2,522	2,600	78	+3.1 %
翌期以降計上予定損益	▲130	-		
当期純利益	1,755	1,800	45	+2.6%

一株利益	358.96円	367.91円
一株配当	38.0円	40.0円
配当性向	10.6%	10.9%

当社の為替リスクと会計上の表示について

■ **当社は基本的に為替リスクは負わないビジネスモデル。**

海外仕入先との外貨建て仕入契約締結と同時に、国内顧客と円貨の販売契約締結。

その際、仕入外貨額に対する為替予約をすることで為替リスクをヘッジしている。

但し、当社は会計処理基準における原則法を採用しているため、会計上の表示が特徴的。

1. **売上総利益と営業外損益（為替差損益）の表示に常に影響。**
2. **決算期末をまたぐ取引（翌期以降に販売）は期間損益の表示に影響が発生。**

■ **表示の特徴**

取引の段階に応じて、計上に使用する為替レートが異なるため、

取引の途中段階において、為替差損益が生じる。

最終的には当初の為替レートにより計上された売上・売上原価になるので実質的な利益に影響はないが、売上計上前の取引の途中段階においては

①売上総利益と営業外損益の表示に影響するほか、

②計上が期間をまたがることにより、期間損益に影響する。

売買取引のイメージ（為替の影響）

為替レートが変動しても、実質的な利益には影響しない。

①売買契約時点 → ②船 積 時 点 → ③仕入決済時点 → ④販 売 時 点

2~3ヵ月　　2~3ヵ月

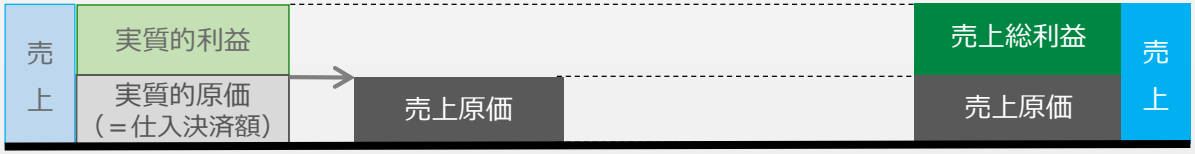
処理

- ■ 為替予約（①時点レート）
  ※同時期に行う処理
  ■仕入先と外貨建て契約
  ■販売先と円建て契約
  ＝実質的な利益確定
- ■仕入計上
  ＝実勢為替レート
  （②時点レート）
- ■①と②時点の
  為替変動差を
  為替差損益として
  計上
- ■売上計上
  （①時点で契約した
  円建金額）

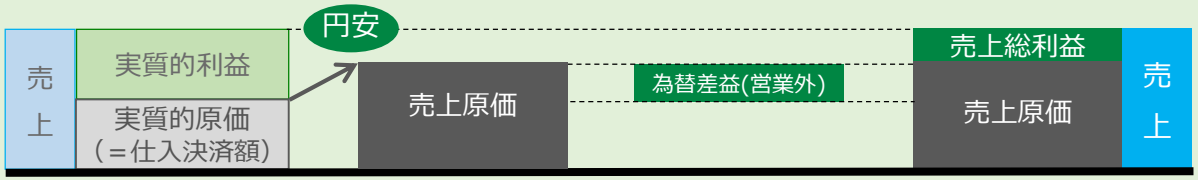
取引終了時(④まで終了)
④の販売まで終了した時点では、①～④時点の処理が通算され、①時点の実質的利益及び実質的原価と同額が会計上も計上される。

取引が途中で決算をむかえた場合
③時点と④時点の間に期末をむかえた場合、先行して、為替差損益(営業外）が計上される。

為替レート 変動なし

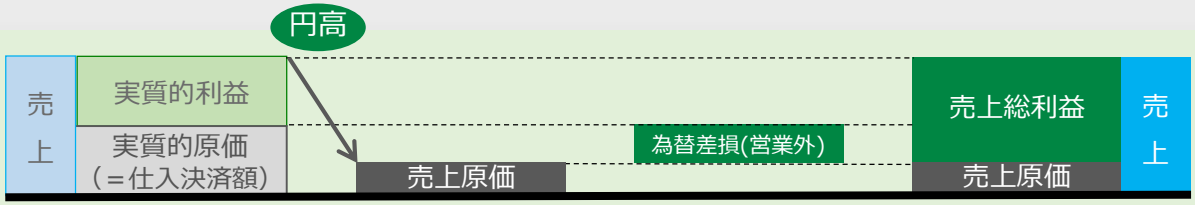


為替レート 円安



③時点では為替差益が営業外利益として先行して計上。
→①時点の為替予約の金額より、②時点の仕入価格が高くなるため

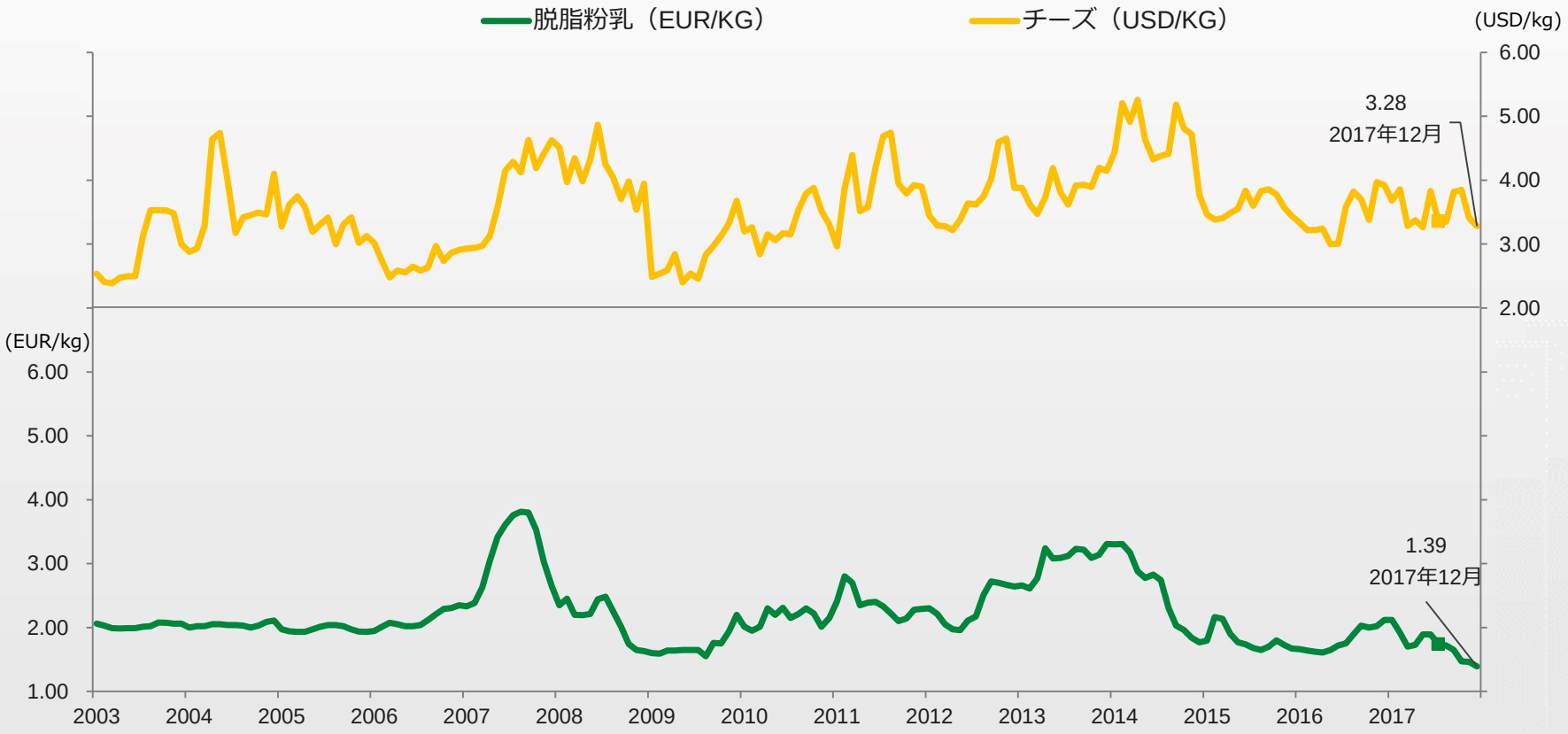
為替レート 円高



③時点では為替差損が営業外損失として先行して計上。
→①時点の為替予約の金額より、②時点の仕入価格が安くなるため

乳原料・チーズの国際市況

脱脂粉乳：オランダ公定価格 EUR/KG工場前価格（2003年1月～2016年12月）
チーズ：米国CMEチェダー取引価格推移　USD/MT（2003年1月～2016年12月）



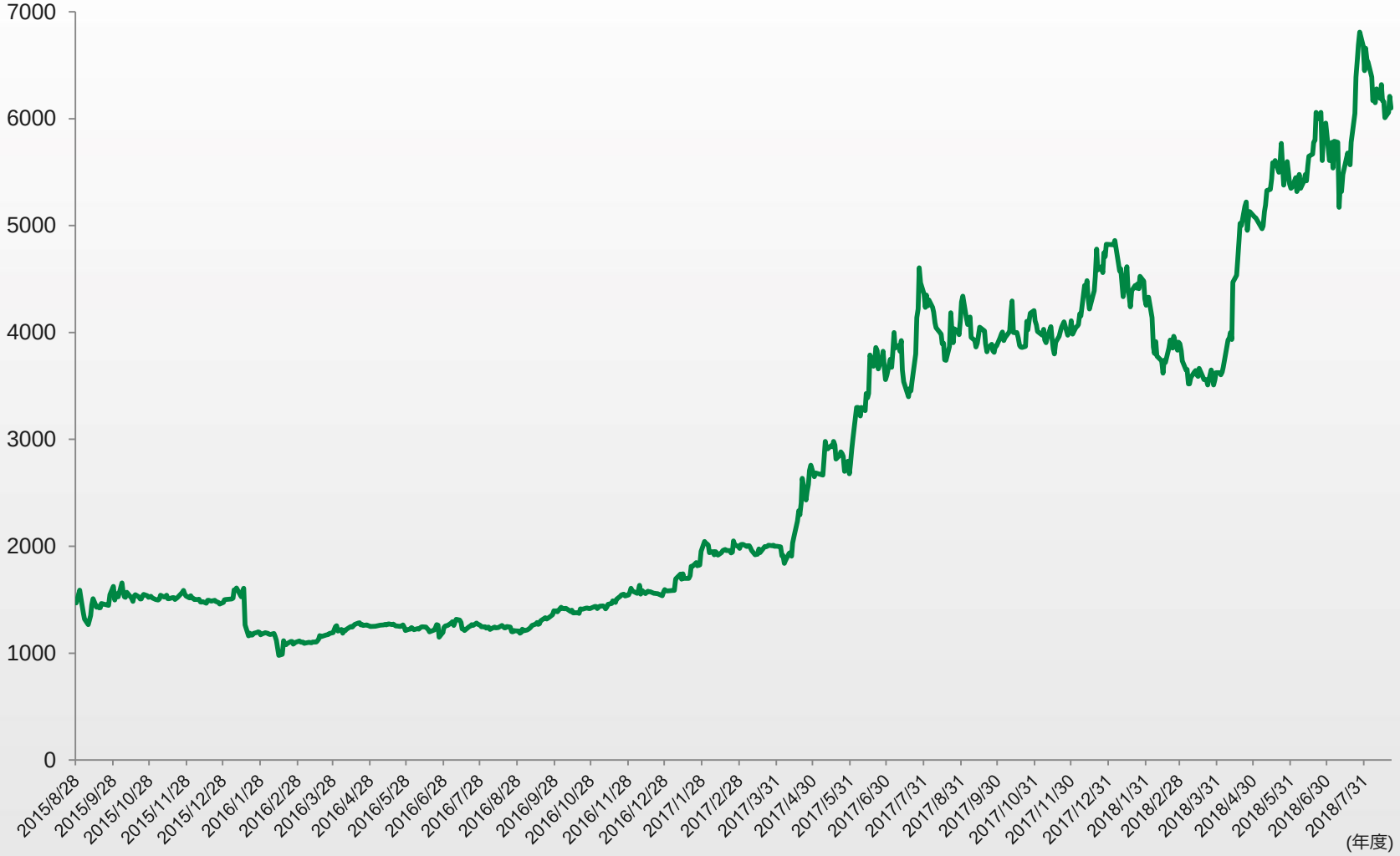
（ご参考）投資関連情報

投資参考情報

市場	東京証券取引所　市場第1部
証券コード	3139
単元株数	100株
株価（2018/8/22終値）	6,100円
最低購入代金	610,000円
配当利回り（予想）	0.66%
PER・連結（株価収益率・予想）	16.58倍
PBR・連結（株価純資産倍率・実績）	2.30倍

注）配当利回り、PER、PBRともに2018/8/22の終値をベースに算出

株価の推移


7000
6000
5000
4000
3000
2000
1000
0
2015/8/28
2015/9/28
2015/10/28
2015/11/28
2015/12/28
2016/1/28
2016/2/28
2016/3/28
2016/4/28
2016/5/28
2016/6/28
2016/7/28
2016/8/28
2016/9/28
2016/10/28
2016/11/28
2016/12/28
2017/1/28
2017/2/28
2017/3/31
2017/4/30
2017/5/31
2017/6/30
2017/7/31
2017/8/31
2017/9/30
2017/10/31
2017/11/30
2017/12/31
2018/1/31
2018/2/28
2018/3/31
2018/4/30
2018/5/31
2018/6/30
2018/7/31
(年度)

ホームページのご案内

株式会社ラクト・ジャパン
ホーム
ラクト・ジャパンとは
事業内容
株主・投資家情報
企業情報
Global
Food
Professional
Company
事業内容 Our business
乳原料・チーズ部門
食肉加工品部門
アジア事業部門
ラクト・ジャパンとは?
Go!
お知らせ News
一覧を見る
RSS
グローバルネットワーク
食品の安全性について
乳製品情報

株式会社ラクト・ジャパン
ラクト・ジャパンとは
事業内容
株主・投資家情報
企業情報
採用情報
HOME > 株主・投資家情報 > トップページ
株主・投資家情報
Investor relations
株主・投資家情報
経営方針
IRライブラリー
株式情報
IRイベント
株価情報
よくあるご質問
電子公告
IRポリシー
免責事項
トップメッセージ
ビジネスハイライト
成長戦略
IRニュース
2018.01.19 決算説明会資料(2018年1月19日) NEW!
2018.01.12 平成29年11月期「決算のポイント」を掲載しました NEW!
IR情報

株式会社ラクト・ジャパン
ホーム
ラクト・ジャパンとは
事業内容
株主・投資家情報
企業情報
HOME > ラクト・ジャパンとは? > トップページ
ラクト・ジャパンとは?
ラクト・ジャパンが果たす役割から、
強み、今後の展開について紹介します。
はじめから見る
What's Lacto?
"ラクト"って何?
Business
どんなビジネス?
Advantage
強み・特徴は?
Future
今後の展開は?
会社紹介

経営理念

Global
Food
Professional
Company

国内外を舞台に各地の
食文化の発展に貢献していく、
新しい企業の形を目指していきます

世界中の優良仕入先との強固な信頼関係を基に、
お客様に対して安心、安全な原料を安定的に供給し、
最終的に消費者の皆様の滋養と健康および食の楽しさに寄与することで、
社会に貢献しともに成長・発展し続ける企業を目指していきます

ご清聴ありがとうございました。

【ご注意事項】

本資料には、当社の戦略や見通しなど将来の業績に関する記述が含まれております。これらは現時点における当社の判断に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでおります。経営環境の変化など、さまざまな要因により変更されることがあります。あらかじめご了承ください。